

事業活動実績報告書

施 設 名	東江幼稚園
教 育 理 念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる

1 事業名	自然・緑豊かな園庭での虫はかせ活動
2 実施期間	令和 7年5月9日 ～ 令和 7年11月 14日

3	取組概要	（取組日） 令和7年5月9日 ～ 令和7年5月13日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 園庭では、蝶がよく集まる樹木の近くで待ったり、虫網の使い方を教わったりしながら虫探しを行った。虫好きの子だけでなく、虫網を使ってみたい子も加わり、虫博士に虫のいそうな場所を教えてもらいながら発見を楽しんだ。捕まえた虫は観察ケースで観察し、特徴や生態を知った後に元の場所へ放した。	
		（取組日） 令和7年6月13日 ～ 令和7年6月24日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること この日は玉虫を見つけた子がおり、その姿に周囲の子どもたちも大いに刺激を受け、園庭での虫探しへの意欲が一層高まっていた。虫博士からは、玉虫は近くの水元公園にも生息しているものの近年は数が減っており、貴重な存在であること、また園庭が虫の育ちやすい環境であることの表れでもあると教えてもらった。他には、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、ヤマトシジミ、各種テントウムシ、ウリハムシ、コガネムシ類、ハチ、ニクバエ、ナメクジ、ヤスデなど多様な生き物が見つかった。	
		（取組日） 令和7年7月9日 ～ 令和7年7月11日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること この日の園庭では蝶やトンボ、甲虫類、クモ類、アリ類など多様な生き物が見られ、虫との出会いを楽しむことができた。コフキコガネ、アオドウガネ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモンの幼虫、ツチバチ、カメムシ、プラタナスグンバイ、クロヤマアリ、トビイロシワアリ、ヒメカメノコテントウ、オオフタオビドロバチ、ネコハグモ、コシアキトンボなどが見つかった。	
		（取組日） 令和7年9月19日 ～ 令和 年 月 日 （実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 気温は高いが、木陰は心地よい涼しさがあり、虫たちもその周辺で多く見つけられた。モンシロチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、スジキリヨトウ、ナミテントウ、シオカラトンボ、オオスズメバチ、スズバチ、クラズミウマ、クロヤマオオアリ、トビイロシワアリなど、たくさんの種類の虫に出会うことができた。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年10月10日 ～ 令和7年10月14日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		蝶やトンボ、カマキリ、甲虫類、甲殻類、ヤスデなど、さまざまな生き物が見つけられた。今回は特にアキアカネが多く飛来しており、季節の移り変わりも感じられた。トンボは普段すばやく捕まえるのが難しいが、産卵している時は比較的捕まえやすく、幼稚園の子どもたちも夢中になって捕虫する姿が見られた。	
		(取組日) 令和7年11月4日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		園庭では、気温が低く飛んでいる虫は少なかったものの、地表や葉の裏、土の近くを中心に丁寧に探すことで、ツヤアオカメムシ、ホソヒラタアブ、アキアカネ、アカボシゴマダラ、アオスジアゲハの幼虫ウンモンズズメの幼虫、中国アミガサハゴロモ、アオドウガネの幼虫、ナミテントウの幼虫、アズマクロヤマアリ、タカラダニ、オカダンゴムシなどが見つかった。落ち葉やどんぐりなど植物の観察も行い、季節の自然に親しむ機会となった。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの		
(取組日) 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの		

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		東江幼稚園				
教 育 理 念		「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる				

事業の区分（5領域）	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）					
	健康	人間関係	環境	◎	言葉	表現
1 事業名	自然・緑豊かな園庭での虫はかせ活動					
2 事業概要	自然環境豊かな当園の園庭に、虫博士を招いて子どもたちと園庭の虫、生き物を探し、個体名を知り、生態を知り、特徴を知り、触れたり見たりして観察する。それらの経験を通じて自然の大切さ面白さを学ぶ。					
3 対象学級（クラス名） 対象人数	年長、年中、年少（クラス名：やま組、そら組、さくら組、いなほ組）				30 名	
計 画 時	4 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況				
		・園児107名に対して、広い自然豊かな園庭（1140㎡）が当園にはある。 ・園庭には果樹9種類を含めて、15種以上の様々な樹木や多くの草花がある緑豊かな環境である。園庭の土は山砂を搬入して、凸凹で水遊び泥遊びができる状態になっている。水遊びをしていると、トンボやチョウチョなどがすぐに飛んでくる様子が見られる。蟻だけで10種類以上生息する豊かな環境がある。 ・生き物、自然に詳しい専門家（葛飾自然観察グループ・メジロの会会員）が月に1～2回来園して、園児に指導することができる。子どもたちは虫博士がいないときでも、豊かな自然の中で自分で進んで虫と関わる事ができる。				
計 画 時	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
	園庭の自然環境を活用した活動を通して、子どもたちは自然や生き物への興味・関心を深め、観察力や探究心を育む姿が見られた。また、虫博士による助言や援助に加え、自ら虫を探し、見つけ、確かめようとする経験を重ねることで、自信や主体性の高まりにもつながった。さらに、事前告知としてポスターを作成したことにより、活動への期待感をもって登園する子どもの姿が見られ、参加意欲の向上にも効果が認められた。今後は、専門家の訪問機会を充実させることで、より具体的に専門的な学びを深めるとともに、保護者も関われる活動を取り入れることで、家庭における自然体験へと広がることが期待される。					
計 画 時	5 事業のねらい	遠くの自然より身近な自然を知る。自然環境豊かな園庭に、虫博士を招いて、園庭という身近なところにも多くの生き物、植物が生きていることを知り、親しみ、興味を持ち、知りたくなり、守りたくなる。自然環境に興味関心を持つようになって欲しい。そして興味関心を持ったことを学んでいくことの楽しさを知って欲しい。				
	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等			
計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等				
		(5月から11月を中心に)月1回程度、「虫博士」として来園して、子どもたちと園庭を散策し昆虫を採取、観察する。これまでも1回でシオカラトンボ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、セボシジウカイ、トビイロケアリ、クロヤマアリ、等の昆虫を見つけた。園児にとっては毎日過ごす園庭なので、虫博士の来ている時だけではなく毎日継続して昆虫を探したり触れたりすることが出来る。各回の報告書を作成し、図書スペースで自由に保護者が閲覧できるようにする。そのことで、保護者にも関心を持ってもらい、園児が虫や自然により関心を持つことにつながる。				
計 画 時	6 取組の内容	上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点				
		自然環境における具体的な体験を提供。虫博士との活動では、昆虫観察や採取を通して、身近な自然とのかかわりを深める。 園庭の昆虫観察を日常的に行うことで、子どもたちが自発的に興味を広げていく場を確保する。				
計 画 時	6 取組の内容	(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点				
		虫博士の来園時だけではなく、日常の昆虫観察活動を拡充。 園児が自ら園庭で昆虫を探し続けられるよう、園内での継続的な観察環境を整備。具体的には、新しい虫網や虫かご、そして学びを深められるように昆虫の本、図鑑を揃える。				

計 画 時	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 虫博士との継続的な活動を通して、子どもたちは園庭に生息する多様な昆虫に親しみ、身近な自然へ主体的に関わろうとする姿を見せるようになった。虫博士来園時の体験にとどまらず、日常的な虫探しや観察へと関心が広がり、継続して自然に触れる環境づくりの効果が認められた。また、図書スペースに図鑑や昆虫の本をそろえたことで、家庭に本を借りていきじゅくり読むなど、虫に関する関心が深まった。
	7 環境構成例		・園庭に虫網と虫かごを持ちあつまり、昆虫採集をおこなう。採集したらすぐその場で、虫博士に名前や特徴を教えてもらい、子どもたち全員で情報共有をする。 ・雨天時や虫が少ない時期などは、昆虫図鑑を見たり、植物を見たり、事前に野山で採集してきた、生き物(シュレーゲルアサガオ、アカハライモリなど)をみて、専門家から特徴や飼育方法生態について説明を受ける。 ・虫網置き場を常設して、園児がいつでも虫取りができるようにしている。
	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 虫網や虫かごを身近に置いたことで、子どもたちが日常的に虫取りや観察に取り組む姿が増え、自然への関心の継続につながった。採集後すぐに虫博士から名前や特徴を聞くことで理解が深まり、友達同士での共有も活発になった。雨天時等も図鑑や他の生き物を活用することで、学びを途切れさせずに進めることができた。
計 画 時	8 期待される効果児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 月1回の虫博士訪問日をきっかけとして、日々昆虫などの生き物を見つけ捕獲することで、自然への関心をたかめ、また、自然環境への関心を高めることで生物多様性の保全や生態系の持続可能な管理に将来的に、つながっていく。SDGs目標15の陸生生態系の保全、回復、持続可能な利用につなげていく。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 月1回の虫博士訪問を契機として、子どもたちは日常の園庭生活の中でも昆虫や身近な生き物に目を向け、自ら見つけたり捕まえたりしながら関わる姿が見られるようになった。継続した観察や触れ合いを通して、自然への興味・関心が高まり、生き物が暮らす環境にも意識が向くようになっていく。また、季節や環境の変化に伴う生き物の違いにも気づく機会となり、体験を通した学びの深まりがうかがえた。こうした積み重ねは、将来的な自然環境や生物多様性の保全への意識を育む基盤になると考えられる。
9 効果検証総括			事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 本事業を通して、子どもたちは園庭という身近で豊かな自然環境の中で、多様な昆虫や生き物に継続的に触れ、自然への興味・関心を着実に深めた。元職員で自然観察グループ等に所属する昆虫専門家や、近隣の専門家による助言は、子どもたちの発見や学びを支える大きな契機となった。また、普段から園庭で活動しているため、専門家が来園しない日にも園児自らが「むしはかせ」として虫探しや観察を楽しむ姿が見られ、主体性や探究心の育ちにつながっている。加えて、基準を大きく上回る広さと多様な樹木・草花を備えた園庭環境そのものが、継続的な学びを支える基盤となっている。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。